

$\frac{2}{4}$ 3 | 5.5 5.5 | 5.5 5.5 | 6.5 3.3 | 3 0 |
 ユ キヤコン コン アラ レヤコン コン
 3.3 6.6 | 5.6 5 | 5.5 6.5 | 6.5 3 0 ||
 ダイセン ヤマ ニ ユキコロ コロヤ

鳥取の俗謡

鳥取 永井幸次寄

雪ゆきやこんく
 霰あられやこんく
 大山だいせんやまに
 雪ゆきころくや

盛岡地方の手毬歌、御手玉歌

盛岡 山村 材美

1. 學校がっこう々々の生徒々々の勤めといふは朝は早起き手水をつかひ、父と母とに一禮終り、目上々々に挨拶なして夕さらへし手本や本を、しやんと包んで、名札を添へて姉は妹に兄は弟に心付けつゝ學校に出で、行儀、正しく側見わきみをせず、教師々々の教を守り、忠と孝との二ツの道を理へ知るの第一よ第一よ
 2. おらが姉さん三人御座る一人姉さん唱歌が御上手、一人姉さん裁縫さいほうが御上手一人姉さん學校に御出で、學校一番勉強べんきょう家で御座る五時に起き出で十時に寢ぬて、寢ぬる時まで書物を讀んで、讀んで覺えて、覺えて讀んで、今年始て、試験に出たら其處の校長こうちょうさんに勉強べんきょうが知れて本や器械と褒美に貰もらひ事の次第しだいを新紙しんしに載せて永く世間に賞ほめられた、賞ほめられた

3. おらが姉さん三人御座る一人姉さん太鼓が御上手、

一人姉さん、鼓が御上手、一人姉さん安達者で御座

る、五兩で帯買って十兩で紵けて紵目々々に赤紅さし

て縫目々々に七總、下げて今年始めて花見に出たら、

寺の和尚さんに抱きとめられて、御洒落 話され、

帯の切れるは、厭ひはせねど、縁の切れたは結ばれ

ぬ結ばれぬ、前で結で後でしめて、しめた所に「い

ろは」と書いて、「いろは」小女郎は伊勢伊勢、参る、

伊勢の長者の茶の木の下で七ッ小女郎は八ッ子を産

んで産むに産まれず、下すに下りず、向ふ通るは醫

者ではないか、醫者は醫者だが薬箱持たぬ、薬、用

なら袂に御座る、此を一服煎じて飲まして見れば、

虫も下りるが其子も下りる、若しも其子が男の子な

ら寺へ登して學問させて、寺の和尚様、道樂和尚で

高い段から突き落されて、たまくら落し、笄落し、

お仙々々、お仙女郎其方の挿したる笄は、拾うたか、

貰うたか、美しい、拾ひも貰ひも、いたさぬが、御

仙の針箱、開けて見た、開けて見たれば、雌鳥、雄

鳥シッシシ、ホッホッホ、中よし、およし、此で一貫

貸しました

4. 名所々々御國は名

所、前は海なら後は

お山、後山から鶴は

解ける、何とよける

や、一ふき、六ふき、

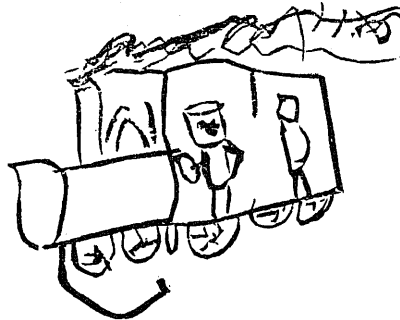
下へ下れば、ふるや

は御座る、ふるやお

いても、そだて、置いて、合ふか合ふかと執念はや

し、なめさかぞっこい、熊のどんさく、肩に掛けた

る帷子、たかしんしよの梅の折り枝、中はごぞんの



(月ケ一十年五)

反り橋、そんな反り橋、渡らぬものか、こきりこきり五左衛門は、何處で打たれた、鹿島^{かしまがじ}街道の茶屋の小娘に打たれた、打たれたも、面目ないで、からすやぐらで、身を捨てた一ちようく

倫理管見

石井 國次

第四 不完全なる社會

さて次に考ふべき問題は然らば過去幾千年間の社會及現在に於ける社會は果して吾人の諸慾望を満足せしめしや否やといふとである。大哲釋迦は此世を假の世空蟬の世と教へ大聖基督は死後に天國あることを説かれた甚しきに至てはシヨツペンハウエルの如く此社會を苦痛の谷とまで罵れるもあつた之等の例を擧げたならなかく數へつくせぬが兎に角多くの人が此社會に滿

足すること能はざりしことは争ふべからざる事實である

けれどこれは人間に快樂よりも苦痛の方がより大なる、より永續する印象を興ふる性質のあるため勿論個人は過去にも現在にも亦恐らく未來永き間にも社會的生存に依て絶對的満足絶對的幸福を得ることは出来ぬけれど孤立的生存を爲すよりも比較的頗大なる満足を得たといふことは疑ない事實である

しかのみならず予は進んで遠き將來に於ては絶對的満足が社會に於て得らるゝに至らんことを斷言せんとするものである、予は社會が未人類に絶對的満足を與ふることを得ないのは其組織が不完全なる爲である若組織が益進歩發達して絶對的に完成するに於ては人類は絶對的に満足を得べきものであると考へる

第五 完全なる社會